

新生児体重と妊婦の体格および妊娠中の体重増加量との関連—妊娠中の推奨体重増加量の新基準での検証—

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-03-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 茆原, 弘光 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00004030

第 45 回日本女性栄養・代謝学会学術集会

<一般口演 1>

新生児体重と妊婦の体格および妊娠中の体重増加量との関連

—妊娠中の推奨体重増加量の新基準での検証—

医療法人社団愛弘会みらいウィメンズクリニック

荏原 弘光

目的：若い女性のやせ傾向と妊婦健診における厳格な体重管理により、妊娠中の不適切な体重増加が胎児の発育に影響を与える可能性が示唆されている。この度、厚生労働省は「妊産婦のための食生活指針」において妊娠中の推奨体重増加量の指針改定を行った。本研究では、新生児体重と妊婦の妊娠前の体格および妊娠中の体重増加量との関連について、新しい指針のもとで検証した。

方法：第 29 回（旧）日本産婦人科栄養・代謝研究会で発表した、「妊婦の体重変化曲線作成プログラム」を「妊婦さんの体重管理アプリ」として開発し、運営を行なっている。利用者のうち同意が得られたデータを、新基準をもとに一元配置分散分析にて解析を行なった。

結果：対象者は、妊娠末期までの妊婦および新生児の体重の入力があつた 5,121 人。低体重群(BMI<18.5) 887 人、普通体重群 ($18.5 \leq \text{BMI} < 25$) 4,057 人、肥満群 (1 度： $25 \leq \text{BMI} < 30$ 、2 度： $30 \leq \text{BMI}$) 186 人の新生児体重は、それぞれ $2,920 \pm 11\text{g}$ 、 $3,000 \pm 5\text{g}$ 、 $3,121 \pm 25\text{g}$ (Mean \pm SE) で、3 群間に有意差を認めた ($p < 0.05$)。低体重群において体重増加が不良 (<12kg) 816 人、適正 ($12 \leq \sim \leq 15\text{kg}$) 56 人、過多 ($15\text{kg} <$) 6 人の新生児体重は、それぞれ $2,906 \pm 12\text{g}$ 、 $3,082 \pm 44\text{g}$ 、 $3,197 \pm 200\text{g}$ で、有意差を認めた。普通体重群において体重増加が不良 (<10kg) 3,020 人、適正 ($10 \leq \sim \leq 13\text{kg}$) 922 人、過多 ($13\text{kg} <$) 115 人の新生児体重は、それぞれ $2,963 \pm 6\text{g}$ 、 $3,096 \pm 11\text{g}$ 、 $3,212 \pm 32\text{g}$ で、有意差を認めた。肥満群において体重増加が不良 (肥満 1 度： $< 7\text{kg}$) 120 人、適正 (肥満 1 度： $7 \leq \sim \leq 10\text{kg}$ 、肥満 2 度： $\leq 5\text{kg}$) 43 人、過多 (肥満 1 度： $10\text{kg} <$ 、肥満 2 度： $5\text{kg} <$) 23 人の新生児体重は、それぞれ $3,089 \pm 30\text{g}$ 、 $3,177 \pm 54\text{g}$ 、 $3,180 \pm 79\text{g}$ で、有意差を認めなかった。

結論：妊娠前の体格と、妊娠中の体重増加は胎児の発育に影響を与えることがあらためて確認された。新基準に基づいた妊娠中の適切な栄養指導のみならず、バランスのよい食事と運動により、正常な体重を維持するというプレコンセプションケアの必要性が示唆された。